



自治労連
新聞



全国自治団体労働組合連合

ふりーじあ 第39号

発行日 平成31年 3月

自治労連教宣部発行

本部 〒114-8508 東京都北区王子本町 1-15-22 北区役所B1 全連協事務所内 (03)3907-5177

全国ユース世代単組間交流 in 西都市

▶ 古代衣装を纏い、御陵墓前広場にて



平成30年11月3日(土)から4日(日)の2日間の日程で、全国の各構成単組から30名の参加のもと、平成30年度自治労連全国ユース世代単組間交流会を宮崎県西都市で開催しました。

今年度は、初めての試みとして、昨年度に開催した全国ユース部代表者会議においてプレゼンテーション大会を行い、ユース世代全員で開催地を決定しました。そして、記念すべき第1回目は、最優秀プレゼンに輝いた西都市で開催することとなりました。

古代衣装で気分は古墳時代へ

まず1日目は、昨年度のプレゼンの中でも紹介があった、西都市を代表する祭り『西都古墳まつり』に参加しました。

集合場所に到着してすぐ、用意された古代衣装に着替え、参加者全員気分は古墳時代に。そこで楠瀬青年部長はじめ西都市ユース部のみなさんから開催に当たったの挨拶や、祭りについての話があり、その後会場へと移動しました。

会場到着後、西都市職の笠瀬委員長から西都古墳群をガイドしていただき、その中でも、円墳で周囲に土塁をめぐらせた、国内唯一の特色のある鬼の窟古墳は古代のロマンを感じさせ、また実際に中に入ることもできるとのこと

で、参加者のみなさんは古墳群について興味津々のようでした。



また古墳群に負けず劣らず、御陵墓前広場には庄巻のコスモス畑が広がっており、各々写真を撮ったり、体験コーナーでは火おこしに挑戦したりと思いの時間を過ごしました。

西都古墳祭りに参加！

西都市街地から会場の御陵墓前広場までの約4キロの道のりを全国からの一般参加者が古代衣装を纏い、手にたいまつを持って“炎の行列”をつくります。ニギノミコトとコノハナサクヤヒメを先頭にたいまつを持った行列

がスタートすると、それはとても綺麗で、参加者のみなさんは釘付けになっていました。

約4キロの距離を歩くなか、3キロを過ぎた終盤に差し掛かったまさにその時、会場から見たいまつが天へと昇り始め、暗闇のなかに煌々と照らされる幻想的なその光景に、みんなが口を揃えて「きれいだあ」と感動に浸っていたのも束の間、なんと約170段の石畳階段が待っていました。これには参加者も疲労の色を隠せないようでしたが、登りきって振り返ったいまつ行列の景色はその疲労も吹き飛ばすほど美しいものでした。



▲たいまつ行列に参加

その後、炎の祭典では、高さ約3メートルのやぐらに火をともし、二人の

神の恋物語を“炎”のゆらめく中、オカリナ、五弦琴、太鼓で奏でる古代演奏にあわせてよみがえらせる、古代衣装を身に着けた人々が舞う姿はとても幻想的でした。



懇親会では、西都市市制施行60周年を記念した6000発の花火を眺めながら、それぞれの単組ならではの自己紹介で盛り上がりつつ、ユース世代の交流を深めました。その後も遅い時間ではありましたが、2次会、3次会と次はどこで開催しようかななどの話題で楽しい時間を過ごしました。

グループに分かれ意見交換

2日目に3つに分かれて行ったグル



ープワークでは、検証・討議・発表力を養うことから、実際に古墳まつりに参加して、みなさんが感じたことや、今後祭りを広くアピールするにはどうしたら良いかについて、意見交換を行いました。

参加者からは、子供も参加できるような短い距離のこどもたいまつ行列やフォトコンテスト等を開催し、多くの人に会場してもらおう（情報発信にも繋がる）など、多くの意見が出ました。西都市のみなさんにも真剣に話を聞いていただき、良い意見交換が出来たのではないかと思います。

初の試みを終えて

最後に、今回ユース対策部も参加し、またユース世代のプレゼンにて開催地を決定するなど初めての試みでしたが、参加者のみなさんからは、実際に祭りに参加し貴重な体験となり楽しい時間を過ごせた、と感想をいただきました。事前準備から当日までお世話いただきました西都市のみなさまに厚くお礼申し上げます。

【ユース対策部】

執行部研修を行いました

第5回中央執行委員会の開催に合わせ、執行部役員対象の研修を1月12日(土)に実施しました。

今年度は、出身自治体のうるま市にて財政を所管する部署に在籍している瑞慶山執行委員を講師として、自治体職員の日常業務に役立つ財政の基礎知識について学びました。

【教育宣伝部】





初開催！ 自治労連保育士研修会

保育士・幼稚園教諭・保育教諭が誇りとやりがいを持って働き、
保育の質の向上を目指すことを目的に、平成30年11月3日（土）
福岡市において
『自治労連保育士研修会』を開催しました。

自治労連としては
初めての開催となる
『自治労連保育士研
修会』では、各単組
から14名の保育士、
幼稚園教諭、保育教
諭が参加し、講座と
事前アンケートによ
るグループワークを
行いました。
開催にあたり湧川
博昭副中央執行委員
長があいさつを行い、
今回の研修会開催に
至る経緯と今後の保
育士研修会の在り方
について説明があり
ました。



講座

『ハートフルコミュニケーションの基礎編』

《講師》

NPO 法人ハートフルコミュニケーション
代表 菅原裕子（すがはら ゆうこ）氏

《内容》

➢ハートフルコミュニ
ケーションとはどう
いうものか

➢コーチングの技法

➢子どもとの接し方



【参加者の声】

- ・人材育成について響くところがたくさんあった。
- ・コーチングという考え方・声のかけ方・ほめてもらうことの落とし穴・各市の悩み等を共有できた。
- ・子どもの「いや、したくない」に対して、十分に受けとめ、ふんわりと繰り返す。
- ・良好な人間関係を築くために、相談や話し合う。
- ・子どもの心を聴くこと、シグナルに気付くことの大切さ等を学んだ。
- ・自分の子育てや保育を振りかえりながら学べた。
- ・コーチングの話は、これからの保育にとっても必要だと思います。他の保育士にも聞いて欲しい。
- ・子どもに向けての関わり方、コミュニケーション等、再確認ができた。
- ・具体的な言葉かけの方法を知る事ができた。

※事後アンケートより抜粋

《グループワークのテーマ》

※各項目で感じている課題について

- 保育所・保育士(幼稚園教諭)の役割
- 子どもに対する保育内容・技術
- 保護者への対応
- 保育所内における職員間の人間関係・連携
- 人事・環境整備



▲全員で自己紹介 & 他己紹介!

研修会に参加して

研修会に参加して、自分の仕事について改めて考え、仕事の悩みや課題と一緒に考えてくれる仲間ができたような気持ちになりました。

私自身は子育て経験はありませんが、日々子供たちと関わる仕事をしていく上で、難しいなど思っていた部分にヒントをもらうことができ、仕事の中で意識しながら子供たちと関わっています。グループワークでは、各市町村や各園、一人一人のおかれている環境などを知ることができ、自分の悩みに対して様々な立場の人が共感や解決策を提示してくれて、嬉しかったです。市町村や園、立場の違いというほどよい距離感があることが、自分の話をしやすい環境であったと思います。今後もこのような形の保育士研修会をぜひ開催してほしいです。

参加者 N

参加者のみなさんから「ハートフルコミュニケーションについて、保護者にも聞いてもらいたいと思った」「同じ市の職員と話すことはあっても各市の方を話すことはあまりないので、とてもよい機会となった。」「保育に関し、同じような悩みが共有でき、よかった。各市それぞれの保育など参考になった。」「などの感想が寄せられました。

研修会に参加されたみなさんからは、次回以降の開催を要望する声があり、保育の質の向上を目指す目的に次年度以降の開催に向け取り組んでまいりたいと思います。

【組織対策部】

連載

自治体法務入門講座

「法に明るい職員をめざして」

第3回 「お役所仕事」の意味

A市立のB高校では、毎年、3月になると校舎に大学受験の実績を示した大きなパネルが掲げられます。パネルの一番上の部分には「〇〇大学〇名合格」と大きく、その下にやや小さな字で「△△大学〇名合格」と、さらにその下になんか小々な字で「××大学ほか国公立大学〇名合格」と書かれています。「〇〇△△××」は、いわゆる偏差値の順番です。パネルに書かれていない他の大学に合格した生徒や進学せずに就職した生徒もいます。

さて、みなさんは、これをどう思いますか?自分がこの高校の担当だったら、パネルを張ることを課長に提案しますか?それとも、何か心に引っかかるものがありますか。

確かに、私立高校では、多くの生徒を一流と呼ばれている大学に合格させ、その実績を積極的にPRすることによって、経営を向上させています。むしろ、一流大学に進学させること自体が経営目標なのかもしれません。A市もその民間的な経営手法を取り入れました。実際に、B高校においては生徒が増加し、一定の成果を得ています。

しかし、A市は自治体です。偏差値に拠ったパネルの掲示は、A市が偏差値という価値、いわば、世間の風評に従って教育行政を実施していることを意味します。

「××工作所に就職するべくは、〇〇大に進学したY君のように学校の名誉にはならないのですか?その理由は何ですか?」と聞かれたら、A市の教育委員会は、どう答えるのでしょうか。その問いは、いつか議員やマスコミから行われるかもしれません。

A市職員の誰かが、偏差値順のパネルを掲げることに疑問を持ち、掲示の可否について真摯に検討することが必要です。そのためには、「〇〇大学〇名合格」と同等の大きさを「××工作所(有)1名就職」と記載することが、本来の行政のあり方なのだとすることを、認識しておかなければなりません。

自治体の役割を自覚し、住民一人ひとりのことを考え、時間と手間をかけて仕事することや、効果のある手段をあえて排除することは、決して、行政特有の非効率や旧態依然の体質の現れ、いわゆる「お役所しごと」ではないのです。

「教育宣伝部からのお知らせ」
 ↳ 法務相談室について ↳
 組合活動や仕事の中での法的な疑問について、森顧問までご相談ください。
 連絡先は、kusu4809@yahoo.co.jpです。

出展: 『自治体法務の基礎から学ぶ指定管理者制度の実務』(森幸二著。新刊・ぎょうせい)